

言語聴覚士 専門試験問題

[No. 1] 運動神経線維のみの脳神経はどれか。

1. 嗅神経
2. 三叉神経
3. 顔面神経
4. 迷走神経
5. 副神経

[No. 2] 肺の解剖について正しいのはどれか。

1. 左肺には3本の葉気管支がある。
2. 肺の栄養血管は気管支動脈である。
3. 区域気管支は左右5本ずつある。
4. 細気管支まで軟骨が存在する。
5. 左右の肺には約5000万個の肺胞が存在する。

[No. 3] ホルモンの分泌で正しいのはどれか。

1. エリスロポエチンは骨髄から分泌される。
2. グルカゴンは膵臓から分泌される。
3. バソプレシンは副腎皮質から分泌される。
4. アルドステロンは副腎髄質から分泌される。
5. エストロゲンは精巣から分泌される。

[No. 4] 骨格筋で正しいのはどれか。

1. 健常成人では体重の約 10%を占める。
2. 赤筋線維はミトコンドリアの量が少ない。
3. 筋小胞体から放出された Ca^{2+} がトロポニンに結合する。
4. 神経筋接合部での興奮の伝達は双方向性である。
5. 低負荷の運動では白筋線維が活性化しやすい。

[No. 5] 評価尺度で誤っているのはどれか。

1. 血圧は比例尺度である。
2. 気温は間隔尺度である。
3. Brunnstrom stage は順序尺度である。
4. 血液型は名義尺度である。
5. 年齢は間隔尺度である。

[No. 6] 国際生活機能分類 (ICF) の構成要素ではないのはどれか。

1. 参加
2. 活動
3. 心身機能・身体構造
4. 環境因子
5. 日常生活動作

[No. 7] Alzheimer 型認知症について誤っているのはどれか。

1. 記憶障害
2. 物盗られ妄想
3. パーキンソニズム
4. 記銘力障害
5. 見当識障害

[No. 8] 急性炎症の初期に見られるのはどれか。

1. 線維化
2. 血管新生
3. 好中球遊走
4. リンパ球遊走
5. 肉芽組織形成

[No. 9] 空気感染予防が必要なのはどれか。

1. MRSA
2. 麻疹ウイルス
3. インフルエンザウイルス
4. 風疹ウイルス
5. 百日咳

[No. 10] 胃全摘出術後の障害として誤っているのはどれか。

1. ダンピング症候群
2. 骨代謝障害
3. 血小板減少
4. 鉄欠乏性貧血
5. 逆流性食道炎

[No. 11] 失語症の訓練について、以下のうち誤っているものはどれか。

1. 自由会話は実用的なコミュニケーション訓練にもなり得る。
2. 訓練対象者の生活環境やパーソナリティは訓練方法を考えるうえで重要な要素である。
3. 訓練対象者の周囲の人に適切なコミュニケーション方法について助言することは重要である。
4. 重症例の場合は、ある程度自然回復を待ってから訓練を開始する。
5. 意識障害を伴う場合、正確な失語症の評価は難しい。

[No. 12] 摂食嚥下障害患者における摂食状況を7段階で評価するスケールは以下のうちどれか。

1. DSS
2. FOIS
3. EAT-10
4. FILS
5. FIM

[No. 13] 舌半側切除術を受けた患者に対するリハビリテーションについて、以下のうち誤っているものはどれか。

1. PLPの利用を積極的に検討する。
2. 創部の痛みを留意しながらリハビリを進める。
3. 構音が不明瞭な時は、書字などの代替手段も積極的に活用する。
4. 食事は咀嚼をあまり要しないものから始めることが多い。
5. 食事の開始時期は主治医の指示に従う。

[No. 14] 地域包括ケアシステムについて、以下の文章のうち誤っている部分を選べ。

厚生労働省は1. 2025年(令和7年)を目途に、2. 高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、3. 居住地にこだわらず人員・設備の整った医療・介護施設で、4. 自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、5. 地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進している。

[No. 15] 以下の心理検査のうち、失語症者の知的能力を測定するのに最も適しているものはどれか。

1. MMSE
2. HDS-R
3. RCPM
4. WAIS-IV
5. WAB

[No. 16] 食塊が咽頭に残留しやすい嚥下障害患者に対して用いない姿勢は以下のどれか。

1. リクライニング位
2. 頸部伸展位
3. 側臥位
4. 頸部回旋位
5. 頸部屈曲位

[No. 17] 食事介助を行う際に注意すべき点について、以下のうち誤っているものはどれか。

1. 口腔内が清潔か確認する。
2. 十分覚醒していない時は、食事は見合わせる。
3. 湿性嘔声がある場合は、できるだけ喀痰あるいは痰の吸引を行う。
4. 患者と視線を同じ高さにして介助する。
5. 嚥下できたかどうかは口腔内をみることで確認できる。

[No. 18] 運動性失語症者の意思を引き出すコミュニケーション手段として、以下のうち誤っているものはどれか。

1. 描画
2. ジェスチャー
3. 50音表
4. Closed-question
5. コミュニケーションノート

[No. 19] パーキンソン病患者の嚥下障害の特徴について、以下のうち誤っているものはどれか。

1. 嚥下反射惹起遅延
2. 舌骨挙上不全
3. 喉頭挙上不全
4. 咽頭内圧亢進
5. 食道入口部開大不全

[No. 20] 遂行機能障害について、以下のうち誤っているものはどれか。

1. 習慣的に行っている家庭での基本的な生活行動が困難になる。
2. 自分に対する他人の判断や思いに無頓着になることがある。
3. 日々の些細なことにとらわれやすくなる。
4. 計画性がなく、また結果を十分見通すことなく行動してしまう。
5. 代表的な検査として BADS や WCST がある。

[No. 21] ALS 患者に対するコミュニケーション訓練や指導について、以下のうち誤っているものはどれか。

1. 発話スピードを調節すると会話明瞭度が上がることもある。
2. 障害受容の程度にも配慮しながら、代替的コミュニケーション手段について情報提供する。
3. 口唇や舌の抵抗運動を積極的に行う。
4. 条件を満たせば意思伝達装置の給付を受けることができる。
5. 利用できるコミュニケーション手段について、家族、さらには患者とかかわる専門職らと情報を共有しておくことが大切である。

[No. 22] 改訂水飲みテストについて、以下のうち誤っているものはどれか。

1. 冷水 3ml を口腔底に注ぎ嚥下を命じる。
2. 嚥下後、反復嚥下を 2 回行わせる。
3. 嚥下があり、呼吸が良好でむせなければ最大 2 施行繰り返す。
4. 頸部聴診を同時に行うと、より正確に評価ができる。
5. 最も良い場合を評点とする。

[No. 23] 発話速度のコントロールを目的としたものではない訓練法は、以下のうちのどれか。

1. モーラ指折り法
2. プッシング法
3. ペーシングボードの利用
4. フレージング法
5. リー・シルバーマン法

[No. 24] 気管カニューレが嚥下機能に与える影響について、以下のうち誤っているのはどれか。

1. カフにより誤嚥を完全に防ぐことができる。
2. 物理的に喉頭挙上を制限する。
3. 嚥下時の声門下圧上昇が不良になる。
4. カフが頸部食道を圧迫して通過障害をきたす。
5. カフによる喉頭、気管への物理的刺激で分泌物を増加させる。

[No. 25] 超急性期の失語症状の評価について、以下のうち誤っているのはどれか。

1. 患者の変化を観察しながら有効なコミュニケーション手段を探る。
2. 日内変動が大きい場合もあるので、看護スタッフ等から他の時間帯の情報を得ることも重要である。
3. 認知機能やコミュニケーション能力の改善には情動のもたらす影響が大きい。
4. 評価が患者にとってかなりの負担になることもあり、血圧や脈拍など全身状態に留意しながら進める。
5. 質問にうなづく時は、質問が理解できていると考えてよい。

[No. 26] 舌骨上筋群とその支配神経について、以下の組み合わせのうち誤っているのはどれか。

1. 顎舌骨筋－下顎神経
2. 顎二腹筋前腹－下顎神経
3. 顎二腹筋後腹－顔面神経
4. 茎突舌骨筋－舌咽神経
5. オトガイ舌骨筋－舌下神経

[No. 27] 発語失行・構音障害・音韻性錯語の鑑別について、以下のうち誤っているのはどれか。

1. 構音障害は単音(「ぱぱぱ」など)連続と3音(「ぱたか」など)連続に大きな差異はない。
2. 発語失行は3音連続に比し、単音連続の障害が大きい。
3. 発語失行は誤り音や誤り方に一貫性がない。
4. 音韻性錯語を呈する場合、仮名書字でも音韻性錯書が出現する。
5. 失調性構音障害と発語失行は鑑別が難しい場合がある。

[No. 28] 嚥下調整食学会分類 2021 において、形態が「ピューレ・ペースト・ミキサー食などでべたつかず、まとまりや すいもので不均質なものも含み、スプーンですくって食べることが可能なもの」と定義されている食品は、以下のうちどれか。

1. 嚥下訓練食品 0 j
2. 嚥下調整食 1 j
3. 嚥下調整食 2-1
4. 嚥下調整食 2-2
5. 嚥下調整食 3

[No. 29] 高次脳機能障害者が利用できる社会資源について、以下のうち誤っているのはどれか。

1. 失語症を含む高次脳機能障害は精神障害者保健福祉手帳の対象障害である。
2. 40 歳以上の脳血管疾患による高次脳機能障害者は介護保険の対象である。
3. 全ての都道府県に高次脳機能障害支援拠点機関がある。
4. 高次脳機能障害支援拠点機関には高次脳機能障害支援コーディネーターが配置され、個別支援、診断・評価、情報提供、家族支援等の役割を担っている。
5. 高次脳機能障害者の当事者団体は、香川県を含め全国に複数設立されている。

[No. 30] 片側声帯麻痺について、以下のうち誤っているのはどれか。

1. 左側に多い。
2. 気管挿管が原因の場合は予後不良である。
3. 最長発声持続時間は短縮する。
4. 麻痺側声帯は萎縮する。
5. 氣息性嗄声を呈する。

〔記述問題 1〕

言語訓練場面において、机上に置かれた 6 枚の絵カードの中から、言語聴覚士が口頭で指示した絵カードを正しく指せなかった場合、原因として何が考えられるか。できるだけ多く挙げよ。

〔記述問題 2〕

脳梗塞により言語障害と嚥下障害を呈している患者に対し、発症翌日に初回評価を実施するにあたり、事前にカルテから収集すべき情報を挙げよ。

〔記述問題 3 ①、②〕

嚥下造影検査において、咽頭に模擬食品の残留が認められた時、

①原因として何が考えられるか

②咽頭残留を除去するためにどのような手法があるか

いずれもできるだけ多く挙げよ。